



なぜ今、企業メセナなのか？

(財)新日鉄文化財団の挑戦

新日鉄は1995年、社会貢献事業の一環として長年続けてきた音楽メセナの伝統を継承するとともに、音楽文化のさらなる繁栄を目指して「紀尾井ホール」をオープンした。その運営母体として設立した「(財)新日鉄文化財団」は、厳しい経済環境下でも“発掘・創造・育成・交流の場”をテーマとする「紀尾井ホール」の運営努力を重ね、明確なコンセプトによる支援を一貫して続けてきた。特別企画の第1回目では、来年で10周年を迎え、ハード・ソフト共に今や日本を代表するリーディング・ホールとしての名声を獲得した「紀尾井ホール」と、新日鉄文化財団の活動を紹介します。



対談

一貫した活動の継続が 大きな成果を生み出す

作曲家・東京音楽大学教授

池辺 晋一郎氏

新日本製鉄(株)代表取締役会長
財団法人 新日鉄文化財団理事長

千速 晃

プロフィール 池辺 晋一郎 いけべ しんいちろう

1943年水戸生まれ。6歳頃よりピアノ、作曲のレッスンを受ける。東京芸術大学、同大学院修士課程を通じて作曲を学び在学中から注目される。東京音楽大学教授。作曲活動においては多作家として知られ、クラシック分野の膨大な作品のほか、劇、映画、テレビ・ドラマなどの主題曲・付随音楽も数多く作曲。また、文筆家、NHKテレビの番組解説者としても活躍。著書多数。紀尾井ホール以外にも、水戸芸術館をはじめ全国多数の音楽ホールの企画・運営に携っている。

日本の企業メセナの現状

千速 本日は『紀尾井ホール』の建設準備段階からご協力いただいている作曲家の池辺晋一郎さんをお招きしました。2004年度は、紀尾井ホールがオープンして9年目であり、来年は10周年を迎えます。この間を振り返っていただき、(財)新日鉄文化財団(以下、財団)の運営やその意義について率直にお伺いしたいと思います。

池辺 私は現在、音楽監督や委員という立場で、全国7、

8カ所のホール運営に関わっていますが、民営のホールは紀尾井ホールだけで、他はすべて地方自治体などが行っているものです。以前、(社)企業メセナ協議会でメセナ賞の審査もしていましたが、全国のメセナ活動を知れば知るほど、改めて紀尾井ホールの素晴らしさを実感しています。千速 文化事業を推進していくためには、大きな支援が必要となります。新日鉄も財団も工夫を重ね、運営の質と量を落とさないように努めているところです。一方、国レベルでもホール運営に対する助成金制度を設けるといった明るい兆しもありますが、税制上の課題など、企業が支援を

深めていくうえでハードルも少なくないように思えます。その点についてはいかがですか。

池辺 現在日本では「特定公益増進法人」(注)の枠組があり、活動が制約されています。本当はそこから直さなければいけないのです。税制についても、アメリカでは優遇措置があり、また、ホールもロビーにスポンサーの特別席があり、出資者や出資企業は大切にされます。スポンサーの企業名や個人名がホールや施設の名前になり、社会的な認知度が高まりますから、スポンサーも出資のし甲斐があります。

千速 欧米では、企業、個人が積極的に文化事業支援をする風土もあるように思います。日本はまだまだこれからですね。

約10年間で高い評価を得た 紀尾井ホール

千速 次に、紀尾井ホールの評価について具体的にお伺いします。当初は、新日鉄が長年支援してきたクラシック分野の音楽ホールを作る計画でした。しかし、日本の伝統文化である邦楽についても検討し、それぞれの専用ホールを作ることになりました。池辺さんには当初の検討段階から「運営準備委員会」に参加していただきました。

池辺 音楽家の耳から言いますと、とても素晴らしいホールです。音響もさることながら、例えばピアノ1台にしても「どのようなピアノにするか」ということを慎重に考え、立ち上がりの時期から財団の方々と私たち委員で徹底的に話し合いました。これほど細かいところまで丁寧に作り上げてきたホールは、他には類がないと思います。少しホールの性格は違いますが、新日鉄が運営しているという意味で「日本のカーネギーホール(注)」だと私は思っています。

千速 お褒めの言葉を頂き、ありがとうございます。2,000席クラスの大きなホールが数ある中で、紀尾井ホールは洋楽が800席、邦楽が250席です。この規模の室内楽ホールという位置付けが、高く評価されているようです。アーティストの中には、「紀尾井ホールに出演するのが夢」と言われる方も数多くいらっしゃいます。

池辺 東京でも800席規模の室内楽ホールは少なく、特に弦楽四重奏やピアノリサイタルには理想的なホールです。世界トップレベルの演奏家も一度紀尾井ホールで演奏すると、もう一度あそこで演奏したいと言っています。海外ではウィーンのムジークフェライン(Musikverein、ウィーン楽友協会ホール)(注)のように、100年、200年でホールと

してのステータスが得られるものですが、約10年という短い歳月でこれだけの評価を勝ち取ったのはすごいことです。一般的にホールというものは、壁や天井の素材が温度や湿度などで変化し、何年か経たないと本当の音は出ないのですが、紀尾井ホールは最初から評判が良く、その評価がさらに高まっています。

千速 一方、アクセス、立地条件も重要です。紀尾井ホールの敷地はもともと当社の施設があった場所で、交通の便も良く緑豊かな環境です。歴史と伝統に彩られた閑静な地を、音楽ホールという文化施設の建設地に選んだことに間違いはなかったと思っています。

ポリシーが明確な 新日鉄文化財団の活動

千速 新日鉄では、約50年前からラジオ放送でクラシックコンサート(現在の『新日鉄コンサート』)をスタートし、長年にわたって日本の音楽界を応援してきました。その伝統を継承する過程で、新日鉄創立20周年を記念して『新日鉄音楽賞』や紀尾井ホールを設立してきました。これらの活動には、邦人演奏家を支援するという一貫した姿勢があります。どのように評価されていますか。

池辺 特に、新人育成の役割を果たしている新日鉄音楽賞の『フレッシュアーティスト賞』は、登竜門として大きな価値を生み出していると思います。歴代の受賞者を見ると、皆さん世界的なアーティストに成長しており、選考委員の確かな耳を感じます。また、私が選考委員を務める『特別賞』についても、演奏を裏から支えている、あるいは地道に活動してきた人たちに目を向ける姿勢が素晴らしいですね。

千速 ありがとうございます。ホールのオープン当時は、「やはり欧米の演奏家でなければ」というお客様も多く苦労しましたが、じっくり継続していくうちにご理解だけできた実感しています。新日鉄音楽賞は、国内外の音楽賞を紹介した『音楽賞データブック2003』で、「長期展望をもとにしたコンサートの場を提供し続けるなど、(新日鉄の)用意周到な文化支援事業の象徴」と評価されました。そして、こうした考え方を集約し、主催公演の中核を担うため、邦人演奏家の若手とベテランを組み合わせることで結成したのが『紀尾井シンフォニエッタ東京』(以下KST)です。現在ではNPO法人として独立し、2005年5月のドイツ・ドレスデン音楽祭に招聘されるなど注目度も高まっており、今後が楽しみです。

特定公益増進法人：公共法人、公益法人等の法人のうち、教育や科学の振興、文化向上、社会福祉への貢献等公益の増進に著しく寄与すると認められた法人。特定公益増進法人に対する寄付は、税法上の優遇措置を受けることができる。

ウィーン楽友協会ホール Gessellschaft der Musikfreunde in Wien (通称Musikverein)：1870年に完成したホールで、世界最高の音響効果をもつコンサートホールと言われる。元旦のウィーン・フィルのニューイヤーコンサート会場。

カーネギーホール Carnegie Hall：アメリカの「鉄鋼王」カーネギー(Andrew Carnegie 1835-1919)がニューヨークに設立したホール。1891年にチャイコフスキーの指揮で楯(こけら)落としが行われ、現在アメリカで最も有名なコンサートホール。世界中の一流演奏家が演奏しており、音響には定評がある。クラシック音楽だけでなく、様々なジャンルのコンサートが行われる。

池辺 KSTのような室内オーケストラは、室内楽ホールと同様に稀有な存在です。指揮者の尾高忠明氏の指導もあり、素晴らしい演奏集団に成長したと思います。これもホールと同じで、わずか10年で評価を得るといのがすごいですね。

また、新日鉄文化財団の活動は、コンセプト、ポリシーが非常に明確です。この明確さは、財団はもちろん、新日鉄という企業自体の姿勢だと考えています。

千速 過分の評価を頂きうれしく思います。

池辺 特にホール運営では、KSTや邦楽ホールの存在があり、明確なコンセプトによる多くの主催公演が行われる中で、新日鉄から来ている財団の方々もエキスパートになられています。地方自治体のホールの場合は、共に企画を練りいざ実現というときに担当者が転属してしまうこともあります。一つの企画を成功させるうえで、アーティストと運営スタッフとのコラボレーションが重要であり、そこに財団の存在価値があります。そうした一貫した取り組みはもっと評価されるべきだと思いますね。

紀尾井からの発信が 大きな波及効果を生む

千速 現在そうした財団の運営努力もあり、『紀尾井友の会』の会員も増えてきています。当初から社員を強制的に入会させたりしませんでした。ホールや公演の質に対する評価として、自然に社員や外部の方々の会員が増え、公演数も増加しています。

池辺 ぜひ、社員の皆さんも自らの財産として、紀尾井ホールに誇りを持って欲しいですね。また、高い稼働率には大きな意味があります。公演1回の聴衆が800人であっても、長年の活動でその何乗もの人間が関わってきます。美術や演劇でも同じですが、そのときにそこで起こる現象だけではなく、演奏を体感した人たちの背後に多くの人々が隠れていることを意識することが重要です。

千速 そうですね。観たり聴いたりした人が何かに書いたり、話したりする影響力は大きいですね。また海外のアーティストが紀尾井ホールでの演奏体験を本場で話し、それが評価として広まっていくといった波及効果も生まれています。

日本の音楽文化の中核として期待

千速 今後の財団運営や紀尾井ホールに望まれることをお聞かせください。

池辺 今後さらにホール同士の交流や、企画の交換が深まることを期待しています。すでに紀尾井ホールでは、そのコンセプトの走りとなる大阪の「いずみホール」、名古屋の「しらかわホール」の2ホールと作曲共同委嘱の企画を2000年から行ってきました。これはとても意義深い試みで、委



嘱を受けた作曲家の新作が、異なる指揮者とオーケストラの演奏で数日のうちに3大都市で公演されました。古今東西どの作曲家も味わったことのない経験です。また、各ホールの費用負担が軽減されるだけでなく、演奏の機会が増えるという大きなメリットもありました。現在、私自身数多くのホールと関わっていますので、今後はさらにそうした連携の橋渡しをできればと考えています。

千速 連携を通し、各ホールの良さを活かすご指導をぜひいただきたいと思います。ホール同士の連携は運営の効率化と新たな音楽体験をもたらすと同時に、税制面でも良い方向に持っていききっかけになるよう期待しています。一方、池辺さんには邦楽の作曲もお願いしています。邦楽における財団や紀尾井ホールの役割をどうぞ覧になっていますか。

池辺 邦楽は伝統音楽ですが、古いものを忠実に再現すると同時に大切なことは、コンセプトを進化させることです。伝統とはどこかで断ち切られたものではなく、現代も含めたものです。だからこそ伝統であり過去ではないのです。私は邦楽の新作を書くことを、古い器に新しい酒を盛るのではなく、連綿とつながった長い帯の先端を表現することだと考えています。それを現代のホールで体験することが大切ですし、その帯のベースを作ることが、紀尾井ホールのレゾン・デートル（存在理由）だと思います。

千速 邦楽ホールは今後さらに広がりを持たせ、新たな邦楽の発信源としての役割を果たしていきたいと思います。

池辺 私は本来、作曲家は本質的に自らの書きたいものを書くべきだと考えています。頼まれたわけではなく作りたから作るということは、新日鉄のメセナ、紀尾井ホールを作った姿勢と同じなのかもしれませんね。今後も日本の音楽文化の中核であり、誇りである紀尾井ホールを守り続けてほしいですね。

千速 継続していくことが大切です。日本を代表するリーディング・ホールとして音楽メセナの先進的役割を果たすため、今後もアドバイスを頂きながらより良い運営を目指していきます。本日は貴重なお話をいただきありがとうございました。

このインタビューは、2月24日新日鉄会長室において行われました。
池辺氏の平成16年春の紫綬褒章受章をお祝い申し上げます。

日本の音楽文化のさらなる 繁栄のために 着実に実を結ぶ財団運営の熱意



ハルトムート・ヘンヒェン氏

2005年ドレスデン音楽祭会場となる
ゼンパー・オパー

新日鉄の音楽メセナが 世界の桧舞台へ 紀尾井シンフォニエッタ東京

(財)新日鉄文化財団
事務局長
町田 龍一氏

紀尾井ホールレジデントオーケストラ『紀尾井シンフォニエッタ東京(KST)』が2005年5月にドイツ最大の音楽祭『ドレスデン音楽祭』(5月13日~29日)に正式招聘された。その経緯を(財)新日鉄文化財団の町田龍一事務局長は次のように語る。

「偶然にも、KSTが10周年を迎える2005年に、記念となるお誘いをいただきました。ヨーロッパの音楽祭に日本の室内オーケストラが呼ばれることは大変名誉なことだと思います」

通常の海外公演では各都市を1公演ずつ巡るケースが多いが、KSTは、音楽祭の期間中に異例の4公演を行う。

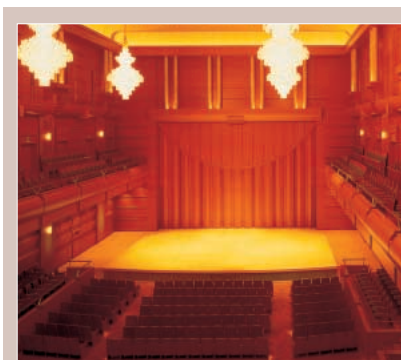
「2003年に指揮者のハルトムート・ヘンヒェン氏をお呼びした際、KSTの実力に『ひとめ惚れした』と評価をいただ

きました。そして、自ら音楽監督を務める『ドレスデン音楽祭』へ正式招聘していただくことになったのです」(町田事務局長)

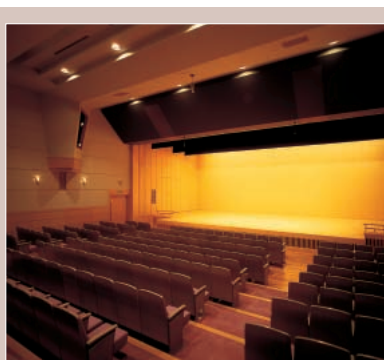
紀尾井ホールの誕生と同時に設立されたKST。10年というわずかな期間で実力がつき、これだけの評価を得るにいたった。その背景には、新日鉄の長期にわたる音楽支援において、<発掘・創造・育成・交流の場>をテーマに、芸術面でも運営面でも常に最高の音づくりを目指し、演奏家を支援し、音楽の楽しみを伝えていく土壌を培ってきたことが大きく影響している。

長年の音楽メセナ活動が 新日鉄文化財団設立につながる

新日鉄の音楽支援の歴史は、1955年に開始したクラシックコンサートのラジオ放送(現在の「新日鉄コンサート」)までさかのぼる。「昭和30年という戦後の成長期において、まだ戦争の混乱も残り、演奏会の機会も少なく、クラシック音楽に対する強い期待と憧れが人々の間にありました」(町田事務局長)。海外アーティストが来日した際、日比谷公会堂での公開録音には長蛇の列ができた。



クラシックホール



邦楽ホール



当社提供コンサートに集まった聴衆。本物の演奏にみんなが飢えていた。1956年4月2日 指揮：斎藤秀雄、桐朋学園オーケストラ(日本青年館)

「当時から、有名なアーティストを大勢呼ぶのではなく、若手アーティストを支援する狙いがありました。鉄鋼業の『産業の基盤からしっかり作る』という姿勢が音楽支援の場にも表れていると思います」(町田事務局長)

その後さらに全国規模で放送されるようになり、1990年には、新日鉄創立20周年と放送35周年を記念して「新日鉄音楽賞」が設けられた。将来が期待される邦人アーティストに贈られる「フレッシュアーティスト賞」と、クラシック音楽をベースとした活動により、音楽文化の発展に大きな貢献を果たした個人を対象とした「特別賞」がある。第1回目には諏訪内晶子氏が受賞し、既に14回目を数え、世界で活躍する若手アーティストを数多く輩出してきた実績を持つ。

創立20周年記念事業のもう一つの柱として、音楽活動の拠点となる『紀尾井ホール』を建設、1995年に開館した。そしてこれらのホールの運営母体として、新日鉄およびグループ会社等の出資により(財)新日鉄文化財団が誕生した。「設立時から、紀尾井ホールという“箱”だけを提供するのではなく、ふさわしい中身をつくって発信することをコンセプトにしていました。紀尾井シンフォニエッタ東京(KST)の創設は、その一環です」(町田事務局長)

舞台裏を支えるプロのスタッフが心に響く“音づくり”を担う



(株)ヴォートル
取締役
米盛 麻衣子氏

紀尾井ホールでは、心に響く“音づくり”を目指し、観客やアーティストが最大限の満足を得られるようスタッフ一丸となって努力している。ホール入口での観客出迎え、チケットもぎり、クローク、客席への案内など接客全般を担当する(株)ヴォートル取締役の米盛麻衣子氏は次のように語る。

「お客様のご要望に最大限お応えできるように努めています。スムーズな接客を実現するため、月1回ホールを半日お借りして徹底した研修も行っています」

紀尾井ホールに足を踏み入れてから帰るまで快適に過ごしていただけるように、暑い日は冷たいお絞りを用意した

り、公演中に急に雨が降り出したときは傘を提供するといった細かい配慮がある。

「遅れていらしたお客様を客席にご案内する際、特に邦楽の場合はタイミングが難しいため、事前に打ち合わせるのですが、お客様に通の方がいらして、より良いタイミングをお客様から教えていただくことができました。このように紀尾井ホールには音楽に詳しいお客様が多くいらっしゃいますので、現場で学びつつ、さらに接遇のレベルアップを図っていきたいと思います」(米盛氏)

紀尾井ホールでは、警備業務も“音づくり”を担っている。(株)アーバンセキュリティ警備第一部紀尾井ビル警備隊長の合田剛宝氏は次のように語る。

「私どもは24時間体制で防災・防犯に勤め、巡回や立哨(公演時の出入り口におけるホール警備)のほか、公演の時間帯以外は、楽屋口において出入管理業務を行います。この際、セキュリティはもちろん、お客様やアーティストの方をご案内するホテルのコンシェルジュのような役割もあり、礼節を持った対応を心掛けています」

観客への対応と同時に、演奏するアーティストにも快適

な環境を提供するため、細かい気配りがなされている。紀尾井ホールの柿(こけら)落としから舞台機構や音響、照明等を総括してきた明治座舞台(株)総括責任者兼音響チーフ次長の稲田優氏は、その役割を次のように説明する。

「舞台の管理業務は作品の評価に関わる部分なので大変気を遣います。特に、通常の公演以外に貸しホールとして提供する際には、各種機材を外部のオペレーターがいつでも使える状況に管理しておくことが大切です」

また、デリケートな楽器や歌手の喉を考慮した空調管理も欠かせない。さらに観客が快適かどうかにも気を配る。空調・衛生管理を担当するマリン興産(株)紀尾井ホール事業



(株)アーバンセキュリティ
警備第一部紀尾井ビル警備隊長
合田 剛宝氏



明治座舞台(株)
総括責任者兼音響チーフ
次長 稲田 優氏



所の駒和弘氏は、通常のビル管理以上に神経を使う業務内容を説明する。「公演ごとに温度や湿度を変えてアーティストが気持ち良く演奏しやすい環境に設定しています。通常は、湿度は40%台に保ち、楽器に負荷がかからないようにしています。夏場の洋楽ホール、邦楽ホール同時公演の際には、一気に空調の熱源量が上がるため、スタッフの事務所の空調を切って対応したこともあります。また、ピアノやチェンバロは調律した後の状況が変わらないように、照明熱にも気を使っています」



マリン興産(株)
紀尾井ホール事業所
駒和弘氏

各スタッフは、直接・間接に観客やアーティストから評価されたときにやりがいを感じると口を揃える。

「お客様から『ありがとう』と言われたときが一番嬉しい」(米盛氏)、「関係者から『快適だった』と言われるとホッとします」(駒氏)、「『他のホールの警備より機転が利く』といったお褒めの言葉に誇りを感じます」(合田氏)、「一日一日何事もなく終演し、お客様の喝采を聴くことが喜びです」(稲田氏)

こうした各持ち場を守るプロのスタッフが、紀尾井ホールの“音づくり”を舞台裏で支えている。

アーティストの理解と協力、幅広い信頼と強力なサポートで

財団法人は基本財産の運用収入を基本に運営されるが、低金利時代の今、必要な活動資金を確保するのは容易ではない。コスト削減の一環としてアーティストにも協力を仰がざるを得ない状況にある。

「私どもとして、対外支出を抑えなければならない状況において、出演料の交渉でも、新日鉄文化財団の活動について熱意を持ってご説明することで、意気を感じてくれた演奏家の方から理解され、ご協力いただくことができます。これまでの地道な音楽支援によるアーティストとの信頼関係の賜だと思えます」(町田事務局長)

また、広く一般からの活動支援金を募る仕組みも考えられている。

「これまで同様、新日鉄およびグループ会社を中心に支援をお願いすることに変わりはありません。これだけホールの評価も高まっているので、もっと世の中にアピールしたいという思いから『紀尾井ホールサポートシステム』を設けました」(町田事務局長)

今後、企業のサポートだけではなく、個人のサポートも期待される。

欧米では、個人レベルで出資支援する例も多くあるが、日本ではまだ稀な状況だ。「広く一般の方から出資を募り、1人1万円でも1,000人集まれば1,000万円になるというように、できるだけ多くの方からのご支援を望んでいます。時間はかかると思いますが、地道に取り組んでいきたいと考えています」(町田事務局長)

人間としての潤いと豊かさを提供する気概を持って

ホールで演奏される音楽は、美術品のように「物」として残るわけではない。

「音楽の本来の価値は“生の音”にあります。わずか2時間で終わる演奏のために大変な練習を重ね、そこに命をかけるような演奏が行われたとき、間違いなく聴衆の感動を呼びます。常に聴衆に感動を与え続ける企画を立案・実行していきたいと思います」と町田事務局長は言う。

また、稲田氏は「せっかく素晴らしい演奏が行われてもお客様が数人しかいらっしやなければ、その価値は半減してしまいます。多くのお客様にぜひ体感していただきたいですね。人間が生きていくためにはまず“衣食住”が必要です。音楽などの芸術分野はその隙間にあるものですが、そこにお金を使えることが文化だと思えます。人間としての潤い、豊かさを提供するという意識で舞台演出に取り組んでいきます」と熱く語る。

スタッフを代表して町田事務局長が呼びかける。

「多くの方々は、普段クラシックや邦楽を聴きに行く機会が少ないかもしれません。ご家族にお好きな方がいらっしやる場合はもちろん、そうではない方も一度お越しになれば、CDとは異なる“生の音”の素晴らしさを感じていただけるはず。最上のクオリティをご用意していますので、必ず満足していただくと確信しています。新日鉄が一貫して行ってきたメセナ活動の成果である真の“音づくり”。ぜひその真価を紀尾井ホールで体感してください。」

「紀尾井ホールで会いましょう 特別企画」第2回目は、紀尾井シンフォニエッタ東京(KST)についてご紹介します。



(財)新日鉄文化財団からのお知らせ

新日鉄文化財団では、下記募集を行っています。ぜひご加入ください。

紀尾井友の会

チケットの優先予約・料金割引等の特典があります。
年会費3,000円。

申し込み・問い合わせ先：電話03-5276-4540(10~17時、土日祝休み)

紀尾井ホールサポートシステム

法人・個人の皆様に、紀尾井ホールの活動を支援していただくサポートシステムで、主催公演のチケット割引・招待、ご芳名の掲載掲示等の特典があります。

会費は個人会員1口1万円、法人会員1口20万円から。

申し込み・問い合わせ先：電話03-5276-4543、FAX03-5276-4527
(10~17時、土日祝休み)

紀尾井シンフォニエッタ東京

2004/2005シーズン定期演奏会 新規定期会員
紀尾井シンフォニエッタ東京定期演奏会の座席を5回分
通して確保でき、割安です。

会費はS：23,000円 A：19,000円 B：12,000円。

申し込み・問い合わせ先：電話03-3237-0061、(10~19時、日祝休み)
<http://www.kioi-hall.or.jp/>